

## 令和元年度第4回きのくにコミュニティスクールの推進に係る 研修会

1. 日時 令和元年10月3日（木） 13時00分～16時30分
2. 場所 上富田町立岩田公民館
3. 参加者 公民館関係者、青少年育成協会関係者、PTA関係者、共育コミュニティ関係者  
放課後子ども教室関係者、土曜日等子ども教室関係者、子どもの居場所づくり関係者、いきいき交流教室関係者、家庭教育関係者、学校運営協議会委員、市町村教育委員会職員、地域連携担当教員等 合計55名

### 4. ねらいと成果・課題

#### (1) 地域住民等の当事者意識の向上について学ぶ

- ・公民館関係者や青少年育成協会関係者など、それぞれが属する組織・団体等において、子供たちを支える役割分担を明確にしながら日々の活動を行うことが重要であることを学んだ。これらを果たすためには、活動の中心となる人から活動に関わる人たちに対し、子供たちの未来の姿を共通認識できるような働きかけが必要である。

#### (2) 地域が一体となり子供たちに関わることで得られる効果について学ぶ

- ・子供たちは、さまざまな大人と関わりながら過ごすことで信頼関係ができ、自己肯定感を高められるとともに、地域に自分の居場所ができたと感じることができることを学んだ。また、祭りや神楽といった地域の伝統行事や伝統芸能等、さまざまな地域活動の分厚い体験を15歳までに経験していると、地域の活動に熱心に取り組む人が多くなるといわれており、子供たちには、さまざまな体験ができる環境づくりが不可欠である。

#### (3) 地域づくりに子供たちや幅広い層の地域住民等が参加、参画するための方法を学ぶ

- ・学校運営協議会が中心となり、「楽しさ」、「わくわく感」等が体験できるような取組を計画することで、多世代を巻き込むことができる。  
また、そのような取組を積み重ねることで、小さな社会を形成することができ、その中で人々は相互に承認関係を結ぶことができるということ学んだ。

### 5. 研修内容 「きのくにコミュニティスクールを通じた、地域づくりに参画する子供の育成」 ～学校を核とした地域づくりに向けて～

#### ◆講演

「これからの地域を担う子どもたちのために

－コミュニティ・スクールといま私たちがすべきこと－

東京大学大学院教育学研究科 教授 牧野 篤 氏

社会教育・生涯学習の視点からみたコミュニティ・スクールについて講演いただいた。地域社会における住民の果たすべき役割や、地域が一体となってこれからの社会を担う子供たちを育成する取組など他県の事例を交えながらお話いただき、参加者のこれからの活動に活かしていける研修会となった。

・コミュニティ・スクールを通じて、子供たちに「社会体験」ができる場を提供することが大切である。「社会体験」をしている子供は、大人になった時に、地域の活動に積極的に参加するようになる。そのためには、公民館等の社会教育施設を核とした事業を展開することが近道となる。



・次世代を担う子供たちのために、地域が総がかりとなりすべての大人が地域づくりの担い手として当事者意識を持ちながら活動を行うことが重要である。すべての人が主役となり他者とともに生きる社会を形成することが、地域総がかりで子供たちを育む体制の構築につながる。

・大人が子供たちに関わり支えることで、話せばわかってくれるという信頼感が生まれ、子供たちの自己肯定感を高めることができる。さらに、子供が社会に居場所ができたとも感じることができ、社会に対しての信頼感を生むことにもつながる。

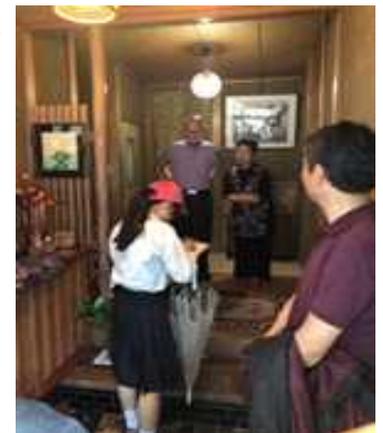
・地域に子供も大人も集まることのできる定期的な居場所をつくることでつながりの生成ができる。また、住民が地域コミュニティをつくり出すことで文化の生成にもつながる。このように地域住民が主体となり、行動することで、地域社会に多大なる影響を与えることができる。

## ◆見 学

「地域に根ざし、地域に貢献する高校生ボランティア  
県立熊野高等学校 kumano サポートズリーダー部」の取組

### ○「ハートフルチェック」

県立熊野高等学校と上富田町社会福祉協議会が連携しながら、高校生が地域の高齢者宅を訪問し、玄関先で生活の様子や体調等について聞き取りを行いながら交流を深める取組を見学した。



### ◆高校生から高齢者への質問

- ・食事はおいしいですか？ 好き嫌いはありませんか？
- ・食事の準備や調理、あとかたづけなど、困ったことはありませんか？
- ・掃除や洗濯・ゴミ出しなど、家事をする中で困ったことはありませんか？
- ・買い物はどのようにされていますか？
- ・定期的に病院へ行っていますか？
- ・お散歩や外出はされていますか？
- ・災害が起こったとき、不安なことはありませんか？
- ・部屋の家具の固定はされていますか？ など

#### ◆見学を通して

- ・高齢者は、高校生が自宅に来ることで笑顔が溢れていた。
- ・社会福祉協議会の職員と一緒に訪問し、必要に応じて高校生のサポートを行うことで、高齢者の方と円滑に話をすることができていた。
- ・家具の固定状況や災害時の不安なことを聞き取っておくことで、災害発生時に、スムーズに対応できる体制を構築している。
- ・普段から顔を合わせる機会をつくることで信頼関係を構築できている。



## 6. 参加者の声（アンケートより）

### （1）学校運営協議会委員

- ・委員であり、公民館職員を務める者として、地域の中で公民館としての果たす役割・責務を見つけることができた。また、小学生と関わる事業が多いが、今後は、中高生とも関わることのできる事業を増やしていきたい。
- ・地域づくりやまちづくりの取組を進めることにより、学校づくりにもつながることを学んだ。
- ・高校生が積極的に取り組んでいる姿が良かった。

### （2）学校関係者

- ・子供たちと関わる立場として、今後の社会を担う次世代を育成することの重要性を学ぶことができ、実践していきたいと考えている。
- ・学校区の中で小さなコミュニティを少しずつ広げながら進めていくことの大切さを学ぶことができた。また、これからの社会の状況や地域のニーズを理解しながら推進することの大切さを学ぶことができた。
- ・社会福祉協議会と連携しながら進める取組は、非常に素晴らしいと感じた。さまざまな団体や企業と連携することにより、子供たちの活動の幅が広がると思った。

### （3）市町村教育委員会担当者

- ・「自己肯定感」をキーワードに地域に根ざした実践を展開することの大切さを学んだ。
- ・コミュニティ・スクールは社会教育の中の一つのツールであり、これを活かすことが重要であると感じた。
- ・高校生の楽しそうな様子が相手にも伝わっており、地域と学校の良いつながりだと思った。また、自分の地域でもこのようにつながりを作ることを目指していきたい。